

平成21年度第1回地域会議議事概要

平成21年10月30日、青森市内において、地域会議を開催しました。

この会議は、私ども日本原燃㈱が地域の皆さまから信頼していただける企業となることを目指し、当社経営層が直接地域の皆さまのご意見やご指摘などをお伺いして、事業活動に活かしていくことを目的に開催しているものです。

【委員（五十音順）】

芦野 英子 様	エッセイスト
上長根 浅吉 様	六ヶ所村商工会会長（浅工務店社長）…ご欠席
菊池 としえ 様	六ヶ所村保健協力員協議会会長
北村 真夕美 様	㈱青森経営研究所代表取締役社長
武輪 俊彦 様	武輪水産㈱代表取締役社長
平出 道雄 様	青森中央学院大学地域マネジメント研究所長
村井 正昌 様	六ヶ所村原子力等エネルギー政策懇話会座長
吉田 豊 様	弘前大学名誉教授（前学長）

【会議風景写真】



【議題】

「再処理工場しゅん工時期変更に伴う、県民の皆さまの理解獲得について」

【議事】

◆弊社社長の挨拶概要

開催に先立ちまして、一言、私からご挨拶を申し上げます。

本日はお忙しい中、地域会議の委員の皆さま方におかれましては、貴重なお時間を賜り、誠にありがとうございます。また、日頃から当社事業に格別のご理解と、ご指導を賜り、重ねて御礼申し上げます。

弊社は、去る8月31日に、様々な遅延リスクを織り込んだ結果、再処理工場のしゅん工時期を大幅に延長し、来年10月と致しました。今回のしゅん工時期変更につきましては、各方面の皆さま方からは大変厳しいご意見等を頂戴しましたが、弊社としましては、安全最優先で、あせらず、一步一步着実にアクティブ試験を進めてまいりたいと考えております。

そうした中、10月22日、再度、廃液漏れが発生し、調査の結果、高レベル廃液であることが判明しました。今年の1月と2月に高レベル廃液が漏えいして以来、様々な対策を講じまして、安全を最優先に作業を進めるべく取り組んでまいりましたが、この度、高レベル廃液を漏えいさせてしまったことは誠に遺憾であり、県民の皆さま方にご心配をおかけしましたことを誠に申し訳なく思っております。

アクティブ試験を再開し、再処理工場をしゅん工に導くためには、県民の皆さまのご理解なくしてはあり得ません。本日は、委員の皆さま方から、県民の皆さまにご理解を得るために、私たち日本原燃はどのようにすべきかについてご指導賜りたいと考えております。

本日は、委員の皆さま方から貴重なご意見を頂戴したいと考えております。何卒、よろしくお願い申し上げます。

◆各委員からのご意見等

◇しゅん工時期変更について

・今回、しゅん工時期が延びたことは村としては辛い。しかし、皆の仕事が無くなる訳でもなく、村として不安はない。また、日本原燃からは広報部門等から沢山情報が入るし、日本原燃の六ヶ所村担当者が日々説明に来てくれるので安心している。川井社長の評判も大変良く、村としては日本原燃を信頼している。

・ロケットの打ち上げでいうと、我々県民は、最後の打ち上げを待つのみだと思っている。日本で初めてかつ重大なプロジェクトであるため、様々な利害関係もあり、全ての人に理解して貰うことは難しいだろうが、信頼して待つ以外にない。

◇安全性、品質保証等について

・度々発生するトラブルに対しては、不安というよりむしろ疑問である。何故、ちょっと気を付ければ防げるような事象が度々発生するのか。今年6月に発生した協力会社作業員への放射性物質付着についても、作業をすれば汗をかくこと、さらにその汗で作業服が濡れるであろうこと、そこから放射性物質が染み込むかも知れないことは十分予想されるのではないかと。普通の感覚でいうと当たり前のことである。

・ガラス溶融炉でミスが発生し、その度にマスコミに報道されると県民に「大丈夫かいな」という不信感・不安感が起こるのではないかと。固化セル内のトラブルについて、私の友人の中には、単純操作なのに何故出来ないのかと考える人もいる。ガラス流下停止の件も、実際の廃液で訓練するなど、日本で初めての試みなのに、もっと事前に手を尽くせなかったのかという思いはある。

・本当に大変な仕事だと思う。人間のやることだからミスはつきものである。いくら慎重にやっても緊張のあまり失敗することもあるだろう。ロケットの打ち上げでも何度となく失敗しているが、最後に打ち上げに成功すれば大バンザイとなる。何度となく失敗というプ

プロセスを経るのは、何も六ヶ所に限ったことではない。誰にでもミスはある。肝心なのは、同じことを繰り返さないように考え行動することであり、日本原燃はその部分をきちんとやるべきである。

・そもそも順調に稼動していれば、今苦労している溶融炉内での繊細な作業を実施せずに済んだ。1つ躓くと新たに解消すべき事象が発生してしまうということを改めて実感している。そのような中で、安全・安全と言われても不安になるのは仕方がない。操作ミスを防止するためには、操作状況を監視する人やペアを組んで仕事をしている人が、少しでもおかしい状況ならばそれを止めることができるという仕組みが必要である。また、悪意のある人物が操作に関わることも念頭に置いた仕組みづくりが必要である。

・操業しても様々な問題が発生することと思うが、何かあってもすぐに直せるような体制が必要である。立派な技術者がいるのだから、出来る筈である。

◇人材育成・従業員のやりがい感等について

・NASAでも宇宙飛行士は長期間かけて訓練を積んで1つのことを成し遂げ、高い報酬と世間からの高い評価を得ており、それが彼らのステータスとなっている。六ヶ所の作業員にも、そういう意義付けが必要ではないか。青森六ヶ所の遠隔操作は世界に誇るものという位置付けができる方向に持っていければ良い。

・六ヶ所での仕事は、NASAと同じ位の専門性を持った大切な仕事であるとの位置づけを明確にするためにも、例えば、宇宙飛行士の若田光一さんによる研修会・講演会を実施してはどうか。

・原燃内で人と人とのコミュニケーションはうまく図れているのか。何か重大なことが起こりそうでも知らん振りしたり、実際に起こっても放置したりということはないか。会社を大事にしない人、思いやりのない人が多いのでないか。大切なのは人の心である。また、技術を確立するには、昔の鍛冶屋さんみたいな、熟練した職人的な感覚も必要ではないか。

・人材のすそ野を広げた中で、お互いが切磋琢磨し、特定分野に優れた人をセレクトすることが必要である。原燃はプロを作るためにお金をかけることが必要である。

・閉鎖的な建物及び不規則な勤務時間という状況下で、仕事をするることによる精神衛生的な面への影響はないのか。メンタルヘルス面のケアを十分に行うことが大切である。

◇県民の方々への理解促進方策について

・日本原燃のこれまでの広報活動の効果は確実にあると思う。また、本社を青森県に置き活動している点も評価できる。新政権がCO2を25%削減するという目標を掲げているが、太陽光・風力等の新エネだけでは解決できないということは県民に浸透していると思う。

・広報活動については、これ以上ない位やっている。少しうるさい位である。ただ、事故が頻繁にあるのは心配であるし、その度にいい訳ばかりしているように感じる。良い話題も織り交ぜて発信できれば良いのだが。

・アクティブ試験中に新たな発見があった場合、日本原燃の技術者による世界に先駆けた発見である旨を強調するなど、情報発信方法を工夫した方が良い。

◇その他

・今後、世界各国が原子力開発を進めて行く中、日本として再処理および廃棄物処理技術を確立することは大切である。将来、世界的に共有すべき課題であり、中国への技術輸出や技術提携といった可能性のある話である。是非、成功させて貰いたい。

・今回、しゅん工時期を14ヶ月延期したが、もうこれ以上延ばすことはできない。延ばせば県民は不安になる。ステップの1つ1つを確実にかつ着実に進め、しゅん工させて貰いたい。個人的には目標時期である来年10月より少し早くしゅん工できれば、日本原燃にとっても明るい話題提供にもなり、一石二鳥であると思う。

以上